

授業改善推進プラン〈社会科〉

社会科における昨年度授業改善推進プランの検証

<成果>

- 地図を積極的に扱い見方を指導すると共に、教室内に地図を掲示するなど日常的に地図にふれさせるようにしてきた。その結果、地図を読み取る力や区や県や国についての知識理解が深まってきている。
- 資料の読み取り方に力を入れ、分かった事を整理しそこから考えられることを表現させ、全員が共有できるような授業を行ってきた。その結果、一つの資料をていねいに読み取り、事実を根拠に考察できる力が付いてきている。

<課題>

- 資料の読み取りについて、複数の資料（地図記号と方位やグラフと年表など）を読み取ったの考察が困難な実態がある。引き続き、資料の読み取り方をパターン化し習慣付け、正確に読み取れるようにしていく。また、資料の読み取りやその関連が視覚的に分かるよう、矢印や丸で囲み、事実関係を文章表現するなどの指導をしていく。
- 必要な社会科用語をしっかりと理解できていない現状がある。単に言葉を強調するだけでなく、授業のまとめをする際に、その用語を使って児童自身が説明するまとめを行い、用語とその意味の理解を深める。

社会科における調査結果の分析

内容別結果の分析	学年	校内平均が目標値に対して －５％以上の領域と内容		考 察
	4 年 生	地域や市の様子 生産や販売 安全を守る働き	▼市の様子 ▼工場の仕事 ▼安全なくらし －火事 －事故や事件	▼公共施設の地図記号の理解に課題がある。 ▼工場の種類別数の表の読み取りに課題がある。 ▼火災発生時の通報の仕組みや消防設備の設置場所と役割を考察することに課題がある。 ▼２つの資料を調べて考えたことを文章で表現することに課題がある。
		市の様子の移り変わり	▼くらしの移り変わり	▼昔と今の道具について、役割や工夫の理解に課題がある。
	5 年 生	生活環境を支える活動	▼くらしをささえる水	▼大切な水をこれからも利用するためにできる取り組みの中から不適切な例を選択するのに課題がある。
自然災害からくらしを守る活動		▼自然災害からくらしを守る －地震 －水害	▼資料（話や写真）に着目して、町が整備している防災無線の役割を捉え、判断するのに課題がある。 ▼資料（話や写真）に着目して、水道局の取り組みを捉え、災害時の活動の様子を文章で表現するのに課題がある。	
6 年 生	伝統や文化・先人の働き	▼先人の働き	▼年表の読み取りに課題がある。	
	国土の自然などの様子	▼世界の中の国土 ▼日本の国土と人々のくらし	▼北方領土の理解と社会科用語の理解に課題がある。 ▼日本周辺の海流の理解に課題がある。→地図から適切な海流名を選択できない。	

観点別結果の分析	課題のある観点領域	
	4年生	●知識・技能、主体的に学習に取り組む態度においても目標値を上回っている。(思考・判断表現のみ下回っている。)
	5年生	●知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、どの観点においても目標値を上回っている。
	6年生	●知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、どの観点においても目標値を上回っている。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 社会科用語や知識理解の定着。
- 2 資料の読み取り方のパターン化と習慣付け。
- 3 複数の資料の読み取りによる考察や自分の考えを表現する力の向上。

社会科の授業改善策

1 知識・理解の定着を図るために

- ・キーワードとなるような用語を目立つ形で板書する。(その用語の意味も押さえる。)
- ・毎時間、前時の振り返りを用語やその意味を提示するなどして行い、本時の学習に入る。
- ・授業のまとめの際、キーワード(社会科用語/教科書では「ことば」として示されている)をできるだけ使って児童が「説明する」視点でまとめの文を書かせる。
- ・東京ベーシックドリルを繰り返し活用し、東京の区市町村・地形、都道府県の位置を理解させる。

2 資料の正確な読み取りを図るために

- ・地図の見方の指導(地図記号や方位など複数の知識を関連させて)を中学年から行っていく。
- ・東京ベーシックドリルを活用し、地図資料の読み取り問題に取り組む。
- ・資料の読み取り方の手順をパターン化する。

【例】グラフの場合

- ①グラフのタイトル→②出典と発行年→③縦軸と横軸→④全体はどのように変化しているか→⑤変化はどこが大きくて、どこが小さいかを毎回読み取りの手順として示し、習慣付けていく。
- ・個人で読み取る時間とグループや全体で共有する時間の両方を確保する。
 - ・教科書の資料だけでなく、教師の意図した資料や資料集の資料などを使って類題に取り組み、自力で読み取る練習を行う。

3 資料の考察や自分の考えを表現する力の向上のために

- ・グループ内での発表やペアでの発表など一人一人が発表する場を多く作る。
- ・資料から読み取ったこと(事実)を資料に書き込む習慣を付け、考えの根拠を明確に捉えることで、安心して発表などの表現ができるようにする。